市民と育てる「多摩市立中央図書館」サポートプロジェクト
―開館前準備から開館後の市民参加イベントの開催―

深水　浩司　常勤特任教授
（教職総合支援センター）

1　はじめに（プロジェクト概要とその目的）

本プロジェクトは、多摩市に2023年7月開館した新たな図書館（多摩市の中央図書館的存在）を、市民とともに利活用をするため（利活用の促進も）に企画したものである。できる限り市民の方々と一緒に「図書館を育てる」ことができるようなきっかけづくりをひとつの目的としている。

大学での様々な教育や活動を、図書館という仕組みを利用して地域や市民に還元できるかどうかも一つの目的（チャレンジ）であったが、いうまでもなく、大学司書課程等で学ぶ学生の資質向上や大学外での経験や機会の提供もそれらには含まれている。

プロジェクトは、2023年度を通じて、以下の4つのイベント等で構成され実施された。

① 多摩市立中央図書館開館準備サポート（5月14日～6月25日の土・日曜に実施）
② 大学生がお勧めする新図書館利用法の提案（図書館ツアーとともに、9月10日実施）
③ 高齢者向け図書館カフェ（10月22日、11月5日実施）
④ 一般利用者向けビブリオバトル（12月17日実施）

以下、イベントごとに報告する。

2　多摩市立中央図書館開館準備サポート

多摩市立中央図書館は2023年7月1日開館されたが、それに先立ち、新規に入手した資料や地域館から集めた資料を、開架・閉架書庫に排架する作業を行わなければならない。2022年中ごろから多摩市立図書館を通じてお手伝い可能な学生がいないかとの要請もあり、それに応えることと、参加学生にとっては、新規開館する図書館を開館前に手伝いながら見学できる貴重な体験の提供もねらいであった。


学生と生徒による書架整理

開館準備サポートは、本プロジェクトが採択される前から企画しており、5月14日から、ほぼ毎週土・日曜に実施した（10時から16時頃まで）。本学学生だけではなく、大妻多摩中学高校の生徒の協力もあり、6月25日までの間、延べ約80名からのサポートを提供できた。作業内容は閉架・開架書庫への資料配架や資料データバーコードの読み取り・変更、新規資料へのラベル貼りなど多岐にわたった。6月10日には、地域ケーブルテレビの多摩テレビ様からの取材もあり、後日放送された。

3　大学生がお勧めする新図書館利用法の提案（図書館ツアーとともに）

新図書館ではフロア別に利用形態を分け、2階は静寂フロア、3階をお話やグループで利用できるラーニングコモンズを配した活動フロアとした。ラーニングコモンズや複数の活動室を大学生ならどう使うかを提案し、参加者とともにディスカッションすることを主たる目的としたイベントである。せっかく参加してもらうのなら、何かお土産を…と学生を共に考えたのが和装本づくりである。

これは、私が担当している司書課程授業でも時折実施しているもので、和紙と麻糸、でんぷん糊で冊子を作成し、メモ帳などに利用していただくことを狙っていた。イベント午前中に教員と学生とが指導しながら作成し、そのまま持ち帰って頂いたが、参加者からは「もったいなくて使えない」という温かいコメントも多く寄せられた。

午後は、新しい図書館のツアーを学生のガイドで実施した。ツアーのすべてを学生自ら考えガイドし、新しい図書館の見所や利用ポイントなどを紹介した。その後、「新図書館の利用方法」をプレゼンし、最後に参加者全員のディスカッションで締めくくった。



学生による館内ツアー

4　高齢者向け図書館カフェ

昨年も実施したこのカフェは、図書館をあまり利用しない高齢者向けに、図書館と本に親しんでもらいつつ、若者との交流も図る目的で企画された。昨年は「認知症カフェ」としたが、本年は認知症に拘らずより広い高齢者を対象としたものとした。

医師とカウンセラーによる事前研修を 10 月 1 日に実施、その後、10 月 22 日と 11 月 5 日の 2 回に分けて（参加者は 2 回とも参加）開催された。今回は、参加学生と参加者が同じ本（『日の名残り』カズオ・イシグロ著）を事前に読み、その感想も語り合えるようにした。同書籍は図書館所蔵数が少なく、プロジェクト費用からの出費を依頼したが、残念ながら書籍購入は認められず、学生分の書籍代は代表者の自己負担とした。2 回実施されたカフェでは、高齢者 1 名につき、最低 1 名の学生が担当し、図書館での本の探し方や選択のサポート、読書後の感想を語り合うなど、1 回 2 時間という短時間ながら、密度の濃いコミュニケーションをとることができた。広報が不十分で、高齢者の参加者は 4 名にとどまった。

5　一般般利用者向けビブリオバトル

ビブリオバトルは、プロジェクト参加学生の核となっている「図書館サークル Olive」で定期的に実施している活動でもある。新型コロナの感染を危惧して 3 年間は実施できておらず、現サークル員は初めての企画・運営となった。今回のビブリオバトルは、「多摩市立図書館開館 50 周年記念イベント」でもあり多摩市としても名実ともに力を入れたイベントとなった。


ビブリオバトル中高生の部

12 月 7 日 17:00 から休館日の図書館でリハーサルを行い、12 月 17 日 午前は中高生を、午後は大学生から一般の方をバトラーとして開催した。両部とも、バトラー、オーディエンス合わせて 20 名程度の参加者があった。すべての進行を学生が担当し、図書館スタッフ 3 名はサポート役に。進行用台本作成や、バトラー発表時のパワーポイントスライド作成もすべて学生によるものである。3 年ぶりの対面開催で、サークル員にとっては緊張する初めてのビブリオバトルだったが、貴重な体験ができたと確信している。なお、中高生の部では、多摩テレビ様による取材があり、後日放送されている。参加者からは、来年も開催してほしいなどの感想も頂いた。

6　おわりに

複数イベントで構成されたプロジェクトだったが、どのイベントでも参加した大学生や中高生が積極的に市民に対するサポートやイベントの企画・運営を行っていたのが印象的であった。多摩市立図書館や多摩市長の阿部氏からは、来年度も大妻学院と市民とともに地域と連携したイベントを企画してほしいとの要望を受けている。学生や生徒と共に要望に応えられるように努力する所存である。